

実習先：有限会社カナーレ・岩安毛織

実習を受けた際にまず初めに知ったこと……

尾州産地では以下のような関係のなかで生地生産が行われてきました



カナーレさん（親機）では

- ・膨大な生地のサンプルに触れながら、各生地の特徴や制作当時のお話を聞いたり
- ・企画、商談の様子を見せて頂いたり
- ・生地を切ったり、ロールに巻いたり
- ・撚糸、染色、整理加工、補修の工場にも同行させて頂きました

岩安毛織さん（子機）では

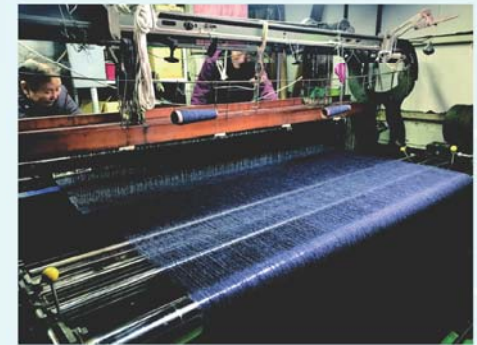
- ・主に織り上げについて
 - ↳ どのような工程を経て生地を織り上げていくのか
 - ↳ 各々の機械の役割と操作の仕方を学びました

【カナーレさんの作る生地の特徴】

- ・糸や色使いがユニークで遊び心溢れるテキスタイルを企画している
- ・その魅力的な生地は確かな技術の基に織り上げられている
 - ↳ 「一見作れそうに見えて作れない」
- ・ジョンヘル織機で織ることをとても大切にされている

【企画】

- ・テーマ「星雲」
 - ↳ 星雲の壮大なダイナミックや儂げで柔らかな美しさをテキスタイルで表現したいと思った
- ・糸・色の選定（糸見本より）
 - ↳ ネイビーベースで、ペールトーンのカラフルなネップの入った糸 = 星雲の色合いそのものを表現
 - ↳ 見る角度によって色が出方が変化する細いビニールの糸 = 星達の瞬きを表現
- ・生地の厚さ（生地サンプルより）
 - ↳ 中厚手 = ある程度のボリュームとドレープ性を兼ねる為の生地厚にした



尾州の匠

ものづくりリレー

2019

名古屋モード学園 ファッション技術学科 3年 坂巻明日香



【ものづくりリレーを通して身につけたこと】

- 私がものづくりリレーを通して身につけたことは、余りにも多すぎて書き切ることができませんが、主に3つに絞りますと、
 - ・一つ生地が出来上がるまでの工程の理解
 - ↳ 撚糸、染色、整理加工の工場から出荷するまで様々な所に同行させて頂いたので、そこでどのようなことが行われているのかを実際に見て、学ぶことができました。またそのような生地を作り上げる為に必要な工場さえも閉鎖に追い込まれていて、どんどん減っていきるので困っているという現状も知りました。
 - ・織りの工程の知識
 - ↳ 生地を織りつけるまでの、準備がものすごく大変で、時間を要することを身をもって知りました。こんなに重労働とは思っても寄らず、それを岩安毛織さんではおばあちゃんがほとんど一人でこなしていることにとても驚きました。また織機を動かすのもコツが必要で、実習のあいだにその技術を習得することはできませんでした。今後とも、お手伝いをしながら、徐々に織や織機の基本的なことを覚えていきたいです。
 - ・地場産業への愛情
 - ↳ 地場産業の現実などとても厳しい話から、シャトル織機の夢のある話まで、一宮の繊維に少し触れ、またそこに携わる様々な人々に会い、尾州産地がとても好きになると同時に、技術を引き継ぎ繋いでいきたいという気持ちが自然と溢れてきました。